












《ポイント》

- ・ 概ね10階以上にお住まいの方は、従来の転倒・落下防止対策に加え移動防止対策も行うことが大切です。
- ・ 避難通路、出入口周辺に転倒、移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。
- ・ 引き出しが飛び出すことで、つまずいてケガをしたり、避難の妨げになったりすることがあるので、家具類を置く方向にも注意しましょう。
- ・ 住居内で、なるべくものを置かない安全スペースを作っておきましょう。
- ・ 緊急地震速報を受けた場合は、あらかじめ定めた安全スペースへ退避し、姿勢を低くして身の安全を図りましょう。

【安全スペースの例】

寝室・自宅内廊下・共用廊下・エレベーターホールなど

☆ 転倒防止器具について、震度6強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。

使用条件	小	器具の効果				大
単独使用	<p>ストッパー式</p>  <p>マット式</p> 	<p>ポール式</p> 	<p>L型金具 (スライド式)</p>  <p>ベルト式</p>  <p>チェーン式</p> 	<p>L型金具 (上向き取付け)</p>  <p>プレート式</p> 	<p>L型金具 (下向き取付け)</p> 	
組合せ使用	<p>家具と天井に十分な強度が必要</p>		<p>家具、壁面や器具に十分な強度が必要</p>			
			<p>ポール式 + マット式</p> 	<p>ポール式 + ストッパー式</p> 		

《結果より…》

- ・ 家具をL型金具などで壁に直接ネジ固定する方法が最も効果が高くなります。
- ・ 家具の上部と天井の間に、ポール式やすき間家具などで家具を固定する場合は、ストッパー式や粘着マット式を併用すると効果が高くなります。
- ・ ポール式の場合は、天井に下からの突き上げに耐える強度が必要で、強度がない場合は、当て板等で補強する必要があります。
- ・ マット式やストッパー式の器具の単独使用は効果が小さくなります。家具の重量、奥行きなどの条件によつての違いはあるが、一般に大きな家具には適していません。